

# 平成28年第3回高山市議会定例会 一 般 質 問

◎一般質問の順序

月 日	議 員 名	会 派 名	ページ
6月10日(金)	1. 山腰恵一 議員	高山市議会公明党	1
	2. 中箴博之 議員	高山市議会公明党	3
	3. 松山篤夫 議員	無 会 派	4
	4. 谷澤政司 議員	無 会 派	5
	5. 岩垣和彦 議員	無 会 派	6
	6. 上嶋希代子 議員	日本共産党高山市議団	7
6月13日(月)	1. 牛丸尋幸 議員	日本共産党高山市議団	8
	2. 沼津光夫 議員	高山市政クラブ	9
	3. 榎 隆司 議員	高山市政クラブ	10
	4. 溝端甚一郎 議員	高山市政クラブ	11
	5. 今井武男 議員	高山市政クラブ	13
6月14日(火)	1. 谷村昭次 議員	創 政 ク ラ ブ	14
	2. 西田 稔 議員	創 政 ク ラ ブ	15

◎質問時間等については以下のとおりです。

**議員の質問のみで40分。質問回数は制限なし。**

**※ 反問に要した質問及び答弁の時間は持ち時間に含めない。**

◎一般質問の内容は次のとおり通告されています。

【山 腰 恵 一 議員】

1. 熊本地震を踏まえた防災について

- ①熊本地震を教訓として、防災対策の見直しなどについてどう考えているのか
- ②指定避難所における非構造部材（天井・壁材・照明器具・窓ガラス）の安全性は確保されているのか
- ③熊本地震では、多数の車中泊避難者があった。駐車場所や健康被害の予防などの対応をどう考えるのか
- ④大規模災害時の支援物資受け入れ体制と各避難所への分配について、どうシミュレーションしているのか
- ⑤市では災害時要支援登録者の3分の1（600人～700人）の支援体制が確立していない。何が課題か
- ⑥支援体制については、まちづくり協議会、民生児童委員、町内会（班）、自主防災組織による連携や地域のコミュニティが重要である。市としてどう推進するのか
- ⑦福祉避難所が1施設しか指定されていない。増やす考えはないのか
- ⑧地域防災では、自主防災組織がカギとなる。平常時から消防関係者や防災活動団体と連携し、組織の育成・強化を図るべきでは

2. 子どもの予防接種について

- ①B型肝炎ワクチンの定期接種制度の内容（接種対象者・接種方法）は
- ②定期接種対象から外れる子どもに対する任意助成ができないか
- ③ロタウィルス胃腸炎ワクチン接種について、メリットをどう認識しているか
- ④ロタウィルス胃腸炎ワクチン接種の任意助成ができないか

### 3. 食品ロスの削減について

①市内における食品ロスの現状をどう把握しているのか

②幼稚園・保育園・学校などで食育・環境教育を通じて食品ロスの削減の啓発をして  
はどうか

③市民・事業者が一体となった食品ロスの削減に向けた取り組みが重要と考えるが市  
の見解は

【中 箴 博 之 議員】

1. 公共施設等総合管理計画の策定について

- ①前提として、あるべき行政サービスの水準についての議論が不可欠では
- ②計画策定のためではなく施設のマネジメントを統括するために専門部署が必要なのは
- ③まちづくりの観点から公共施設の適正配置の検討が必要では

2. 木材関連産業の競争力強化について

- ①木材利用の現状と今後の需給バランスをどう分析しているか
- ②新たな木材需要の創出について市のビジョンはあるのか
- ③高山の基幹産業として飛騨の家具をもっとアピールしてもいいのでは

3. 誰にもやさしいまちづくりについて

- ①これまでに整備したバリアフリー整備箇所を総点検する必要があるのでは
- ②車イス専用の駐車スペースを改善する考えは
- ③人工透析患者の通院支援について、どんな検討がされてきたのか
- ④性的少数者について、正しい知識の普及と差別解消の啓発に取り組む必要があるのでは
- ⑤施行から10年が経過した「誰にもやさしいまちづくり条例」の検証が必要では

【松 山 篤 夫 議員】

1. 大規模災害に対するリスクマネジメントについて

- ①大規模災害により「重要伝統的建造物群」等の観光資源が滅失した場合には、地域経済は大きなダメージを受ける。リスクマネジメントをどう考えているのか

2. 観光政策について

- ①ウォーキングブームを背景に学校行事や外国人観光客の徒歩旅行が増えているなか、ロングトレイルコースの設定は中山間地域の活性化に有効であると考えているが、市の見解は
- ②京都、奈良が中国では「小長安」と紹介されているが、高山市を「ミニ小長安」として紹介するのも新たな魅力の創出につながると考えるが、市の見解は
- ③座禅は外国人観光客が日本の文化に触れる貴重な体験になると考えるが、もっとPRしてはどうか
- ④白山エコパークの拡張登録決定と「飛騨匠の技・こころ一木とともに今に引き継ぐ1300年ー」の日本遺産登録が認定されたが、この二つの地域資源をどのように連携させて誘客につなげるのか。その戦略は

3. 地場製品の販売戦略について

- ①海外では、日本製のランドセル人気広がっているが、「飛騨牛のランドセル」を飛騨高山ブランドとして育てるマーケティング戦略は
- ②東京オリンピック・パラリンピックを「地場製品の商機」と捉え、市の伝統工芸技術を活かしたオリンピックグッズ等の製造・販売への取り組みへの考えは

【谷 澤 政 司 議員】

1. 荘川町のまちづくりと白山ユネスコエコパークについて

- ① 荘川町は名古屋、大阪、金沢からの利便性が良い。白山ユネスコエコパークを活用した誘客活動に取り組む考えは
- ② 白山ユネスコエコパーク対象地区4県7市村のうち、荘川町からの登山道開設に向けて県や環境省などと協議を進める考えは
- ③ ダナ高原、御母衣湖、お寺や神社の伝統行事など、豊かな自然環境や歴史的文化を生かした自然と人との共生を図る「国際的なモデル地域」として荘川町の魅力を上げるなどさらなる取り組みは

2. 大島ダムの整備による災害に強いまちづくりについて

- ① 大島ダムは30年前から計画されている。平成21年度、国のダム検証の対象になったが、検証結果とその後の進捗状況は
- ② 岐阜県において、本年は郡上市内の内ヶ谷ダム本体工事に着手する。早急に大島ダム建設に向け取り組む考えは
- ③ 下流域住民への安全対策の考えは

3. 通学生や児童の安全対策について

- ① 西小学校、総和保育園のスクールゾーンである玄関南側道路において、速度を上げて走る車両が多い。速度を落とすなど児童の安全対策の考えは
- ② 道路に面する西小学校プール周りのコンクリート壁に亀裂が数カ所入っている。地震発生などによる災害が懸念される中、緊急に子どもたち及び通行人の安全対策を講じる考えは
- ③ 斐太高校前の合崎橋から大新町県道交差点までの道路においては、速度を上げて走る車両が多い。通学生の安全対策の考えは

【岩 垣 和 彦 議員】

1. 市内における貧困実態と対応について

- ①近年、市民所得はどう推移しているのか（市民全体、年齢区分別、ひとり親世帯）
- ②国民の貧困率は16.1%とされるが、高山市の実態は
- ③「下流老人」に導かないために、高齢者の収入対策をどう構築するか

2. 若者への総合政策の必要性について

- ①市は若者の社会環境の変化をどう捉えているか
- ②社会的困難（ひきこもり、ニート、うつ病）を抱える若者の支援策など、総合政策を整える時代が到来しているのではないか

3. 高山駅周辺整備完了後の運用について

- ①駅東口におけるタクシー営業の運用方法は
- ②駅東口のバスターミナルと隣接する降車場の運用はどのように図っていくのか
- ③駅西口（ロータリー）の運用について決まっているのか
- ④高山駅周辺における市有地の現状と活用の用途は
- ⑤新たな市内中心部の交通体系や、支所地域を絡める交通体系への考えは

【上 嶋 希 代 子 議員】

1. 18歳選挙権に伴う若者世代の投票率の向上について

- ①高山市の若者（20代）の投票率の現状は
- ②18歳選挙権をどう啓発し投票率向上に取り組むのか
- ③政治教育（小中高）のあり方は
- ④「共通投票所」の設置の考えは

2. 熊本地震災害の教訓について

- ①避難所の現状と食事の供給体制の確保はされているのか
- ②冬の暖房と自家発電装置の現状と今後の方針は
- ③防災ラジオの全戸無料配付の考えは

3. 市長の出張について

- ①成果をどう捉えているのか
- ②市政運営に支障はないのか



【牛 丸 尋 幸 議員】

1. 消費税について

- ①消費税という税制に対する市長の考えは
- ②地方消費税交付金の使途は、法律等でどう定められているのか
- ③高山市における地方消費税交付金の使途は、どのようになっているのか

2. 地方消費税交付金による施策の拡充について

- ①国民健康保険料の軽減の拡充を
- ②介護保険料の軽減の拡充を
- ③子どもの医療費を高校生まで無料に
- ④学校給食費助成制度の実施を
- ⑤福祉金庫基金貸付制度の拡充を
- ⑥福祉灯油制度の実施を

3. 財政調整基金について

- ①県下一多額となっているのはなぜか
- ②財政調整基金の昨年度末の決算見通しは
- ③10億円程度使って、暮らし応援・福祉充実の施策を行うべきではないか

【沼津光夫議員】

1. 熊本地震規模の災害に対応できる危機管理について

- ①各支所・学校・保育園等の施設、避難所の建物、道路構造物関係の耐震対策はどうなっているのか
- ②市内には大きく分けて3つの断層（荘川の牛首断層、高山・一之宮の江名子断層、朝日・久々野・一之宮の宮峠断層）があるが、どのような対応を想定しているのか
- ③広大な面積を持つ高山市は、大災害時にどのように対応するのが課題である。特に支所地域では、職員数が減少しており、地元出身者も少なくなる中、現地対応の方法をどのように考えているのか
- ④直下型地震の対応をどう考えているのか

2. バリアフリーについて

- ①市内道路のバリアフリー化の進捗状況は
- ②カラー舗装に伴い側溝蓋が開閉しづらくなっていることへの対応は。また維持補修はどうなっているのか
- ③市内商店街のバリアフリー化の現状は
- ④今後のバリアフリー化の方針はどう考えているのか

【榎 隆 司 議員】

1. 市民の意見・要望の対応について

- ①広く市民の声を聴く一つの手法として、支所で移動市長室及び移動副市長室を開催する考えは
- ②市民からの意見、要望を連携して受け付ける際の体制は確保されているか

2. 学校を核とした地域づくりについて

- ①社会的な繋がりや地域コミュニティのよりどころとなる環境整備についての考えは
- ②放課後児童クラブに留まらない学校を核とした子どもの居場所づくりについての考えは

3. 市道認定について

- ①私道を「市道」に認定することについて、今後市はどのように対応されていくのか

4. 接道していない家屋の建替えについて

- ①建築基準法施行以前の建物を建替える際の救済策は

【溝 端 甚 一 郎 議 員】

1. 協働のまちづくりについて

- ①百年の大事業は日々の精進から始まる。一年の評価と将来のまちづくりを見据えた考えは

2. 協働のまちづくりの説明会について

- ①まちづくりの説明会で市民は十分に理解されたか
- ②市民に理解を得られる更なる説明の工夫が必要では
- ③高山市公民館等利用登録団体への説明はなされたのか

3. まちづくり支援金の配分方法について

- ①まちづくり支援金の配分方法は適正なのか
- ②まちづくりは人が創り出すもので、面積割の意味がないのでは

4. まちづくりの情報の開示について

- ①まちづくり広報の配布は全戸に行き届いているのか
- ②まちづくり協議会の傍聴は出来ないのか

5. 町内会活動の今後のあり方について

- ①パートナーとしての町内会のあり方に対する今後の考え方は
- ②町内会未加入者に対する対策は
- ③町内会未加入者の要望事項の取り扱いは
- ④協働のまちづくりの組織の中で町内会の位置づけを考え新たな組織体制を示す事ができないか

6. 青少年・女性・高齢者のまちづくりへの参画について

- ①青少年が夢や希望を語り合えるまちづくりへの参画は
- ②高山市勤労青少年ホーム活動の講座にまちづくりの内容もあるのか
- ③まちづくりに対する考え方をアンケート調査で試みては
- ④青少年がまちづくりの担い手となりうる仕組みづくりを考えては
- ⑤高山市社教女性連絡協議会の発展的な解散をどのように捉えているか
- ⑥女性の考え方をまちづくりにいかに活かすことができるか
- ⑦高齢者の持つ能力・技能・知恵を活かす人材の活用は

7. まちづくり地域担当職員の活動について

- ①地域の中で役割を果たし必要とされる職員を目指せるか
- ②担当職員は、まちづくりの組織に役員として活動しているのか
- ③担当職員の任期はいつまでか
- ④協働のまちづくりのメリットを広げることに取り組んでいるか

【今 井 武 男 議員】

1. 地域医療体制について

- ①市内の総合病院とクリニックとの病診連携の現状は
- ②飛騨医療圏における医療体制の確保について、高山市の果たすべき役割は
- ③市民病院を持たない高山市にとって、総合病院に対する今後の支援の考えは

2. 空家の活用について

- ①市内における空家の状況は
- ②空家等調査の取り組み内容は
- ③空家等対策計画の策定に向けた取り組みの考えは
- ④D I Y型の賃貸借制度（借主が改修できる賃貸借）による空家の活用促進の考えは

3. ドッグランについて

- ①高山市内で飼われている犬の現状は
- ②ドッグランを推進する考えは

【谷 村 昭 次 議員】

1. 公共空間の魅力的な活用について

- ①「MIZBERING JAPAN (ミズベリング ジャパン)」などまちのにぎわいづくりの今後の考えは
- ②若者の雇用創出の観点から「夜間観光、〇〇夜市、夜景づくり」などによる集客と活性化の考えは

2. 地域福祉の現状から見た課題について

- ①福祉サービスの供給体制整備及び充実を図るための社会福祉法人制度が見直しされたが、市の関与の考え方は
- ②人口減少に対応する「互助」は、地域が担う役割と住民負担への合意が必要と考える。地域福祉計画におけるその方向性は
- ③6月に県は「ひきこもり地域支援センター」を開設した。市としての地域連携の取り組みの展開と基本的な考えは
- ④地域包括支援センターにおける支援体制について、人口規模にとどまらず、相談件数や地域特性への配慮の考えは

3. 経済林整備の方向性について

- ①広葉樹経済林の施業について、スイス・フォレスター研修会の成果を踏まえ、木を生かした地域産業づくりの方向性の考えは
- ②高山市森林整備計画に示す「広葉樹施業」とこれからの望まれる行動計画の考えは
- ③広葉樹林の皆伐施業と天然更新による「熱エネルギー利用」にとどまらない、市独自の将来像への取り組みと方向性の考えは
- ④日本遺産の認定から「木を生かす」技術や感性と実直な気質で木と共に生きてきた1300年の歴史から学ぶ、循環型材料調達の仕組みづくりへの取り組みは

【西 田 稔 議員】

1. 災害時の避難所の運営について

- ①早期自主避難に対応できる避難所開設の考えは
- ②ハンディキャップを持つ人の避難所生活には、よりきめ細やかな配慮が必要となる。  
市のサポート体制は
- ③学校でのストレスマネジメント教育が必要と思われるが、その考えは

2. 保育士の労働環境について

- ①保育士の労働実態の把握はなされているか。またその課題は
- ②保育士の待遇改善をどう考えるか

3. 子どもの貧困について

- ①高山市の要保護、準要保護の実態と傾向は
- ②学校は各相談窓口（総合相談支援センター、家庭児童相談室、飛騨子ども相談センター、主任児童委員）とどのように連携して対応しているのか
- ③一人一人にきめ細やかな対応をするため、様々な手法を取り入れた施策展開をする  
考えは